



行政書士 MAP

福岡県行政書士会

広報部発行

第 25 回：母娘で同じ道へ、二人三脚で歩む行政書士

行政書士は扱う業務が幅広い仕事。そのため一人ひとりの得意分野や仕事の流儀、人生の背景も実に多様です。「行政書士 MAP」では、福岡県行政書士会の会員の中から、話題の行政書士やさまざまな活動を行う行政書士をご紹介します。第 25 回は、宗像市を拠点に母娘で合同事務所を経営し、ご活躍されている『行政書士福地・一宮合同行政書士事務所 福地 幸子会員、一宮 晶子会員』を訪ねました。

広報部(以下「広」): 福地会員、一宮会員、本日はありがとうございます。お二人とも福岡北支部の所属ですが、お二人の登録年次についてもお聞かせください。

一宮会員(以下「一」): 私は令和2年の登録です。母は平成 10 年です。

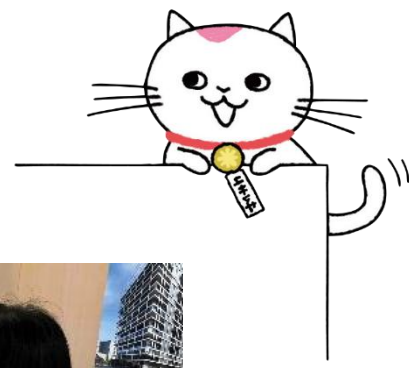
広: まずは、お二人が行政書士になられたきっかけについてお聞かせください。福地会員はいかがでしたか？

福地会員(以下「福」): 元々は法律とは無縁の仕事をしていました。結婚後、子育てをしながら保育士の資格を取り、長崎で民間学童保育所の支援員をしていました。ですが夫の転勤で宗像市へ引っ越すことになり、退職して専業主婦になりました。



ちょうどその頃、一番下の子が 2 歳になったので何かまた資格を取ろうと思ったんです。実は、行政書士という資格に出会ったのは偶然でした。試験科目を見て、これなら取れるかもしれないと思ったんですね。保育園に預けた足で予備校へ通い、勉強する日々でした。

一: 私は小学校高学年だったので、当時のことはよく覚えています。夏休み、真ん中の弟は祖母が預かっていていましたが、私は母と一緒に宗像ユリックス(総合複合施設)の自習室へ行っていました。母は必死に受験勉強をして、私は夏休みの宿題をして。



福: 母や、家族みんなの支えがあって合格できました。合格はしたものの、当時は正直、行政書士が何をする仕事なのかよく分かっていなかったんですけどね（笑）。

最初は自宅の一室で開業しました。研修に参加したり、予備校仲間や平成8年にできた「八年会」という会の仲間と勉強会をしたりして業務を覚えていきました。

みんなで、「こんな仕事をした」「こんなことがあった」という話を持ち寄っていましたよ。

当時は、インターネットに載っている情報は危ない、紙の本でないと信用できないという認識でした。ですから、そうして経験談や参考になる資料を共有し合える機会は貴重でした。

広: 初仕事は覚えていらっしゃいますか？

福: 開業から半年後くらいだったでしょうか、内容証明の業務でした。自宅に付けた看板を見て、ご近所の方が内容証明を書いてほしいと依頼くださいました。もちろん内容証明の作成は初めてですから、ひたすら自分で調べたりいろいろな人に聞いたり…なんとか、無事に終えたという感じでした。

その後、自宅の工事をしてくださった業者の方から「経審（経営事項審査）を受けたい」とのご依頼をいただきました。「経審」や「指名願い」といった言葉の意味もよく分からない状態でしたが、せっかく任せたいと言っていただし、勉強のために何でも受けようと体当たりで取り組みました。

広: 猛勉強なさっていた時期、その頃は子育ても忙しかったのではないかと思います。

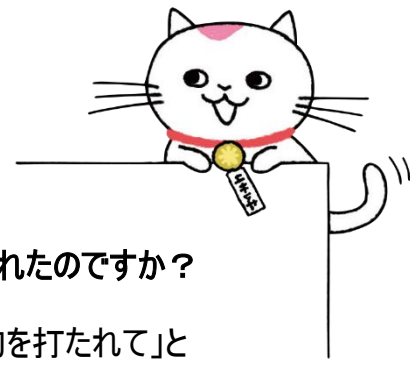
福: 通勤時間がゼロだったのは利点でした。

一: 今思えば母も、仕事中は邪魔されたくなっただろうと思うんです。

ですが子ども心にそれは分からなくて、母に聞いてほしいことがあればきょうだい3人で仕事部屋に行ってたくさん話をしていました。相当うるさかったんじゃないかと思います。

福: あんまりうるさかったとか、そんな記憶はないけど。





広: お母さまのそういった姿を見てきて、一宮会員も行政書士を目指されたのですか？



一: 「幼い頃から志して」とか「母の姿に胸を打たれて」とかそういう大げさなものではないんです。本当に自然に、いつの間にか流れて資格を取っていたというのが実感です。母から行政書士になるよう言われたこともありませんし、進路については放任、本当にノータッチでした。

ただ、自分が高校受験、大学受験の際は事務所で勉強をしていたので、母が仕事に邁進しているのは見てきました。事務所の方が自室よりも集中できたんです。大学進学の際、法学部を選んだことにも影響はあったと思います。

卒業後は金融関係に就職しましたが、私も結婚・出産もあり退職して専業主婦になったんです。私は平成 27 年に行政書士試験を受けたのですが、理由は民法の大改正前に合格しておきたかったというのが大きかったですね。大学で学んだ法律の知識が通用しなくなる前に受けておこう、と。

その頃、夫の転勤で北海道にいたので札幌の会場で受験しました。自宅と会場が 100 km 離れていて…遠かったです(笑)。

合格したものの、夫の転勤先の北海道で登録をしても…と思っているうちに福岡に転勤になり、その後、下の子が 2 歳になる時に登録しました。考えてみれば母と同じタイミングですね。

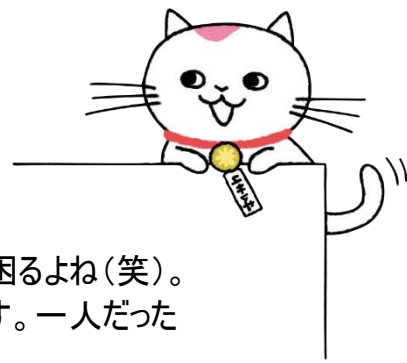
広: そこから福地会員の事務所で合同事務所として開業されたのですね。

福: (娘の) 自宅が管理規約で事務所利用ができなかったのもありましたし、勉強がてらここに通うのがいいんじゃないかと言いました。

広: 母娘お二人でされていて、やりづらいことなどはなかったですか？



福: やりづらいと思ったことは全くないんです。



できれば、業務も全部やってもらいたいくらいですが、全部投げられても困るよね(笑)。弊所には長く勤めてくださっている補助者の方もいるので、助かっています。一人だったら業務の量をこなせないし、業種ももっと絞っていたかもしれません。

広:ずっと淡々とお話くださいますが、開業して、増築して、事務所を移転して、人を雇って…すごいバイタリティですね。

一:隣で見えてもそう思います。一体何足の
わらし
草鞋を履いてるんだろう、って。保護司や調停委員、フラダンスでは東京のチームに所属しながらインストラクターもしていて、多い時は8か所で教室を運営していました。

広:8か所は多いですね！運営だけでもお忙しいそうです。もう一つお聞きしたかったのが、ホームページで「化粧品の製造販売許可」についても掲げていらっしゃいますね。珍しい業務です。



福:許可を取ったことがあるのは実は一度だけです。台湾から輸入した化粧品に自社のラベルを貼って販売したいという依頼でした。要件として薬剤師か相当する学部を卒業している方が必要なので、人材の確保の点も含めて、非常に大変でした。

大きな工場だけでなく、個人輸入をしてラベルを張り替えて販売、という方にも許可が必要なので行政書士がお役に立てる業務だと思います。



広:今後の展望はいかがですか？

福:事務所の規模をもっと大きく、というよりは今のペースで続けていきたいですね。

一:母は生涯現役だと思うので、二人三脚で元気にそれを体現できればいいなと思っています。

広:最後に、一般の方、これから行政書士を目指す方などへメッセージをいただけますか。

一:働くというのは「傍(はた)を楽にする」とも言うそうです。

さまざまな許認可や手続きについて、ご自身でも申請はできますが、やはり、とてつもない労力がかかります。

その部分を行政書士に依頼いただくことで少しでも依頼主ご自身の本業や生活をスムーズに、「楽」になっていただけたらいいなと思っています。

福: 今、福岡県行政書士会でも女性の割合が増えてきています。これから行政書士になりたいという女性もたくさんいらっしゃると思います。

行政書士は業務の幅が広いので、ご自身が興味を持てる、好きだと思える業務に出会うことができるのではないのでしょうか。

広い世界が待っているのです、ぜひ、飛び込んできてください。

広: 本日はありがとうございました。



行政書士プロフィール～

福地 幸子(ふくち さちこ) 登録年月日:平成 10 年 9 月 14 日

一宮 晶子(いちのみや あきこ) 登録年月日:令和 2 年 8 月 1 日

事務所所在地:福岡県宗像市石丸 1-6-27 ジュネスシティ宮の前 1-E

この記事は令和 8 年 8 月 1 日の情報です